

来年の稲づくりは今秋から

□ 越前たけふ米の品質・食味向上は土づくりから □

生産性の維持向上のために土づくりを必ず実施しましょう

一昨年のような涼夏、昨年のような歴史的猛暑など近年の異常気象条件下では、

① 土壌のけい酸分の減少 ② 腐植含有量の欠乏 ③ PHの低下 など、地力の低下により生育後半に稲体が活力を落とし、米の品質・食味低下に繋がっています。土づくり資材を施用し、土壌中の腐植を高めることは化学肥料の低減にもつながることからコスト削減の有効的な対策といえます。土壌に不足している養分の補給を目的としたけい酸資材の施用、有機物の投入、作土深の確保などは決して省略せず、確実な土づくりを行いましょ。

水稻は好けい酸植物といわれています。けい酸は、根の酸化力を増進し、病害虫や土壌還元に伴う各種阻害要因に対して抵抗性を高める効果があります。したがって、毎年継続して、けい酸資材を施用することが望ましく、特に砂質土水田や秋落ち水田等でその効果が高くなります。



農地・水・環境保全向上対策 土壌分析結果より

サンプル	土質	PH値	CEC値	けい酸値	りん酸値
A	灰色低地土	5.9	15.4	11.1	16.1
B	グライ土	5.5	14.9	6.3	66.0
C	褐色森林土	5.7	13.4	7.7	18.4
D	グライ土	6.1	16.7	8.3	44.7
E	グライ土	6.2	14.1	12.1	47.6
F	グライ土	6.6	15.6	8.4	29.2
G	強グライ土	6.2	14.2	8.2	29.1
H	強グライ土	6.4	14.1	15.6	36.3
I	グライ土	6.6	19.0	11.1	34.7
J	灰色低地土	6.6	10.6	9.4	26.8
平均		6.2	14.8	9.8	34.9
基準値		6.0	120	150	200

管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が15.0 mg/100gであるのに対し、ほとんどの地点でこれを下回っており、この傾向は、ほぼ全域に共通しています。又、稲が生育する際、土壌の最適PHは弱酸性（PH6.0）が良いとされていますが、近年強酸性～微酸性（PH5.0～6.0）の土壌が多くなっています。

★ けい酸の補給と酸性土壌の改善を ★

資材名	効果	施用量目標
ケイカル	① 土壌中のけい酸分、PHを高め、土壌中の養分を吸収しやすい状態にする。 ② 茎葉を硬くし、倒伏や病害虫への抵抗力を高める。 ③ 根の活力の発達や葉や茎を硬くし、稲体を丈夫にする。 ④ 光合成を促進させ、米粒中のタンパク質が低下することで、収量・食味が向上する。	500kg/10a

ケイカル500kg 散布実証圃



今年、同一圃場内を二分割し、ケイカル500kg散布区と無散布区を設置した試験を実施しました。毎週水曜日に草丈・茎数・葉色を計測し、9月8日の成熟期に刈りを行いました。

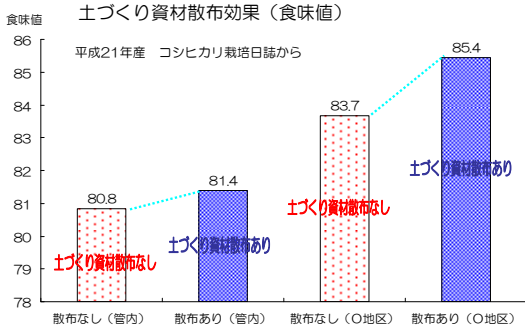
今後、収量・品質の比較調査を行う予定ですが、刈りを行った県やJAの職員からは、ケイカル500kg散布区の方が茎や葉が硬いだけでなく、粉数も多く、わらも重くなっていたとの意見が寄せられました。

土づくりなくして品質・食味の向上なし！ 根を育む土づくりを

健全な稲体は健全な根が支え、健全な根は健全な土が支える

★ 稲わらすき込み効果とポイント ★

- 土を柔らかくして、土が養分を抱える力が向上する。
- 地力の維持増進、土壌の改善・品質向上に役立つ。
- 稲わらの分解を促進するために、収穫が終わったら速やかに（気温が高いうちに）耕起を行いましょ。
- 稲わらには窒素分やけい酸分が含まれますが、焼却すると稲体に利用されにくくなるので、**焼かずに全量すき込み**ましょ。



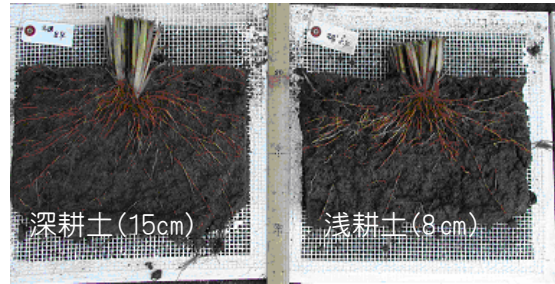
土づくり実施、未実施者別の食味値平均では、やはり土づくりを行っているほうが食味値は高くなります。O地区においては大きな差が現れています。

土づくり資材（ケイカル）の散布量と食味値の平均では、散布量が多いほど食味が高くなる傾向にあります。

まずは、**土壤改良資材の散布と稲わらのすき込み等による土づくりを確実に**行うことが**高食味米生産のための第一歩**となります。

近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しているうえに、基肥一括肥料の側条施肥田植えが広がっています。これらの要因が重なって、**水稻の根群形成が浅くなり、貧弱**となっている傾向がみられます。貧弱な根群では、大きな気象変動にも耐えられず、**稲体の活力を維持できず**に、**籾に養分の転流（運搬）が行えなくな**ってしまいます。

□ 耕深の違いによる根域の違い □



おいしい、登熟の良い米づくり、産米の大粒化を目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があり、そのため、根を十分に張らせ、健全に保つことが重要です。

★ 深耕による根域の拡大で、下層に伸びる根を増やそう ★

- 深耕で作土を増加させることにより、根張りや根の活力を向上させ倒伏や枯れ上がりを防ぎましょ。
- トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くし、現状よりプラス3cmの作土深15cmを確保ましょ。

STOP稲わら焼却 稲わらは放置せず、全量すき込みましょ！

無償散布申込書



◆ ケイカル500 Kg の無償散布について ◆

8月に農家組合より配布した、土づくり資材（ケイカル500kg/10a）の無償散布委託申込書の提出期限は8月25日までとなっていたが、毎年、申込漏れ等が多く、受付を9月30日まで延長します。散布を希望される方は、期日までに申込書の記入、提出をお願いします。

5,000円/10aの助成が受けられます！

至急もよりのJA支店・支所へ

緊急情報 ◆ 特別栽培コシヒカリ生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培（減農薬・減化学肥料栽培など）のコシヒカリづくりを予定されている場合、前作物収穫後から使用した肥料・農薬をカウントします。前作物（今年）が水稻や大麦であった場合、既に栽培期間中としてみなされますので、圃場への除草剤散布は控えるようにしましょう。土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやスーパーケイサン、ようりんを施用するようにしてください。

平成 24 年産米の栽培は既に始まっています